

「社会科ポスター」 —指導実践例と評価方法について—

東京都中学校教諭

1 はじめに

平成24（2012）年度から完全実施となった現行学習指導要領の下では学習評価について観点別学習状況を適切に評価評定することが求められている。「関心・意欲・態度」, 「思考・判断・表現」, 「資料活用の技能」及び「知識・理解」の4観点のなかで「思考・判断・表現」の表現の意味合いと「技能」にふくまれる従前の表現の意味合いを整理して評価する必要がある。前者は思考・判断した過程や結果を言語活動などを通じて、どのように表出しているかを内容としている。後者は資料から情報を収集・選択して、読み取る「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめる際の表現を内容としている*。

社会科という教科の特性から、評価においてもテスト形式を中心とした「知識・理解」重視になりがちである。現行学習指導要領では「生きる力」をはぐくみ、資料を適切に選択、活用して多面的・多角的に考察できる資質の育成が求められており、評価方法のくふう・改善も必要になる。そこで、4観点のなかでとくに「資料活用の技能」（表現活動をふくむ）の評価材となりうる「社会科ポスターづくり」について授業実践例を提示する。

2 課題設定・評価の規準・作成のポイント

まず、ポスター作成に当たって課題の設定が必要である（表①参照）。実際の指導に当たっては表②の点を考慮し、生徒が作品を作成するポイントとしては表③を提示している。

表① 【3年間を系統立てた課題設定】 ザブトン型

1年時	夏季休業中 社会科見学前後 冬季休業中	「世界の国調べ」 「都内の名所、旧跡」 「都道府県調べ」
2年時	夏季休業中 林間学校前後 社会科見学前後 冬季休業中	「歴史上の人物」古代～近世編 「新潟林間新聞」 「鎌倉新聞」
3年時	修学旅行前後 夏季休業中	「歴史上の人物」近代～現代編 「修学旅行新聞」 「思い出のアルバム」 「時事問題」

表② 指導に当たって考慮する点

- ①単元目標にもとづいた評価規準の設定、点数化
- ②年間計画のなかに重点化する観点として明示
- ③地理、歴史、公民3分野にわたる系統性
- ④地域、学校（校外学習、宿泊行事）の特性
- ⑤行事前後の取り組みや総合的学習の時間との併用
- ⑥長期休業中の課題学習と学芸発表会での発表
- ⑦個人または班、小グループでの取り組み
- ⑧生徒同士の相互評価のくふう
- ⑨過去の優秀作品を提示し、イメージさせて、オリジナリティーのある構想を練らせる。
- ⑩金賞、銀賞等の賞をつける。次のはげみになる。
- ⑪言葉での評価。次のステップへのアドバイス。

長期休業中の課題や新聞・アルバム形式は個人で行うが、授業や総合的な学習の時間の場合には4人グループを基本とする。作成の際の担当や発表者などの役割分担を決める。校外学習などの事前事後学習では行動班（男女6人程度）で行い、個人が作成したものを模造紙上でまとめる。

なお、自己評価カードとは別に発表形式の場合にはグループごと、班ごとに授業評価カードを用意し、相互評価させる。説明がわかりやすいか・興味関心をもてたか・ポスターの見やすさなどの項目を入れる。

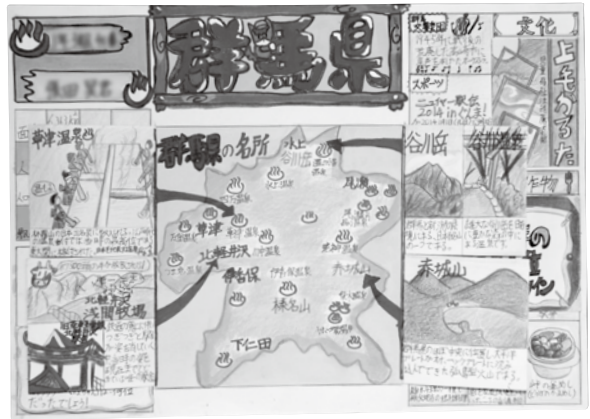
表③ ポスター作成のポイント

- ・画用紙(四つ切り・八つ切り)または新聞用紙を使用し統一する。
- ・横書き, 縦書き(新聞形式は縦型)
- ・表面に組と氏名をサインペンなどで書く。
- ・題名(テーマ)はレタリングなどでデザイン化する。(10mはなれていてもめだつように。)
- ・基調となる文字は黒とする。
- ・鉛筆, シャープペンは下書き以外不可。
- ・サインペン, 絵の具, 色鉛筆など3色以上使用。
- ・地図, 肖像画, 表, グラフ, イラストも入れる。
- ・字とのバランスは半分ずつが望ましい。
- ・自分なりの考察や意見, 感想を入れる。
- ・できるだけ書籍や新聞などを利用する。
- ・インターネットは補助的に利用する程度とする。

3 評価の方法

旧来の社会科のイメージは暗記科目, テストで点数さえとれば成績が上がるというもの。4観点を総括し, 評価評定が行われていることを資料に示して公開していても, 保護者や生徒には多かれ少なかれ知識理解偏重の認識がある。このポスター学習の取り組みはとくに「資料活用の技能」(表現活動ふくむ)観点の評価に多くの部分が総括されるが, ポスターを利用した発表や討論・ディベートにつなげれば「思考・判断・表現」の観点にも, その制作過程や取り組みから「関心・意欲・態度」にも総括できる。

「世界の国調べ」「都道府県調べ」「歴史上の人物」は, その単元のまとめとして「ポスターを持ちながら個人で2分程度説明する。途中で1つクイズを入れても良い。ポスターの評価はまとめて行うが, 発表の場合はクラス全員が終わった時点で成績に入れる。3年次の公民的分野として行う「時事問題」は, 政治・人権・環境・医療・教育などさまざまなテーマが上がってくるので, 各クラス4テーマにしぼって2時間討論形式の授業を行う。ポスター作成者が問題点を提起し, 4人グループになり司会者・発言者を決め, テーマについて意見をまとめていく。各グループ



群馬県をテーマにした「都道府県調べ」のポスター

の主張を発表し, 質問や反論を重ねていく。適切な時点で教師が総括する。生徒は自己評価し, 教師はその過程を上記の観点で評価する。討論を進展させてディベートにつなげていくことも実施したい。細かい点数化の説明はひかえるが, 各観点における評価規準として次の点に着目したい。

表④ 各観点における評価規準

- | |
|---------------------------------------|
| ①課題目標を理解し, おおむね達成している。【技能】 |
| ②適切な資料を選択し, 複数のソースを探っている。【技能】 |
| ③興味関心をもって他者と協力できている。【関心・意欲・態度】 |
| ④オリジナリティーがあり, 見やすいレイアウトでまとめられている。【技能】 |
| ⑤みずからの考察, 意見, 感想を表している。【思考・判断・表現】 |
| ⑥ポスターを利用した発表や討論ができる。【思考・判断・表現】 |
| ⑦生徒による相互評価(評価カードの利用)【技能】他 |
| ⑧出来不出来だけで評価しない。男女差の是正。【関心・意欲・態度】 |

4 おわりに～社会科を好きな生徒を増やす

1年生の初々しい作品, 2年生のくふう, そして, さすが3年生という作品。作品は必ず全学年に目にとまるように全作品の展示をする。宿泊行事, 社会科見学後の発表をポスターや映像をまじえて下の学年に出向いて行う。それぞれの良さを共有することが成長につながる。社会科の好きな生徒が増え, 確実にレベルアップにつながっていく。

* 国立教育政策研究所教育課程研究センター資料より